

TABLE FOR TWOかわら版 補足資料 ～Vol.13 ケニア視察報告～

2012年11月発行

TFTプログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTABLE FOR TWOプログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆様にご覧いただくための補足資料です。貴組織内でのコミュニケーションやPR等のご参考にして頂ければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒よろしくお願いいたします。

【補足資料Vol.13をお送りするにあたって】

2012年1月から新たに、ケニア・ビクトリア湖内に位置するルシンガ島・ムファンガノ島の小学校での給食支援を開始しました。今回の補足資料では、ケニアの概況、ルシンガ島・ムファンガノ島での生活の様子や給食プログラムの状況についてお伝えいたします。

【日本でのTFTプログラム実施状況】

計521の組織で実施中 （2012年10月26日現在）

内訳	団体数	比率
1. 企業	253	49%
2. 学校	94	18%
3. 店舗、小売食品	97	19%
4. 官公庁、公的機関	24	5%
5. 病院	15	3%
6. その他	38	7%
計	521	

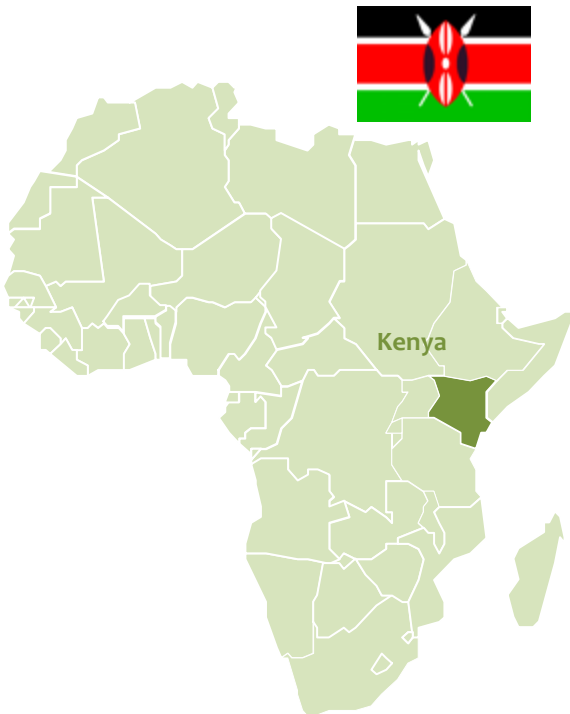
【これまでに寄せられたご寄付】

※TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

- 2007年: 56,737食分（約260人の子どもの1年分の学校給食）
- 2008年: 597,652食分（約2,720人の子どもの1年分の学校給食）
- 2009年: 2,122,627食分（約9,650人の子どもの1年分の学校給食）
- 2010年: 3,815,507食分（約17,340人の子どもの1年分の学校給食）
- 2011年: 5,986,089食分（約27,200人の子どもの1年分の学校給食）
- 2012年1月～9月: 4,139,883食分（約18,810人の子どもの1年分の学校給食）

⇒合計1,671万8,495食分

Republic of Kenya ケニア共和国



- 首都：ナイロビ
- 人口：3980万人
- 民族：キクユ族22%。ルヒヤ族14%、ルオ族13%ほか
- 言語：スワヒリ語、英語が公用語

1963年イギリスからの独立以後、政治的にも比較的安定し堅調な経済成長を果たしてきました。現在も東アフリカ地域を代表する国として、周辺地域を経済的・政治的に牽引しています。特に東アフリカ共同体（EAC）の中心として、難民の受け入れやスーダンなど近隣諸国の和平協定などを通じた政治的安定や、海運・空運における東アフリカのハブとして地域経済に重要な役割を果たしています。

ケニアの現状

目覚ましい経済発展の一方で、課題も多く残っています。

農業

2011年から続く、ソマリアからエチオピア、ケニアの一部にかけての「アフリカの角」と呼ばれる地域における干ばつで、ケニア北部を中心に深刻な状況が続いています。国民の6割以上が従事する農業の生産高は2009年以降下降し続けています。この状況も一因となり、国民全体の栄養失調率は33%と高止まりしています。

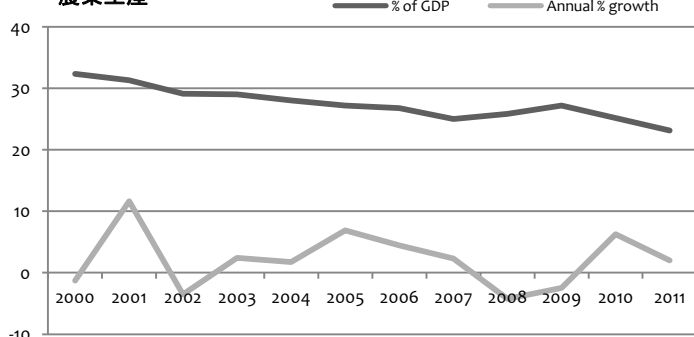
教育

近隣諸国と同様、就学率は上昇しています。特に、中学校への就学率は2009年に約50%まで到達しており、他の東アフリカ諸国と比較しても、高い進学率となっています。



（参考：世界銀行）

農業生産



就学率

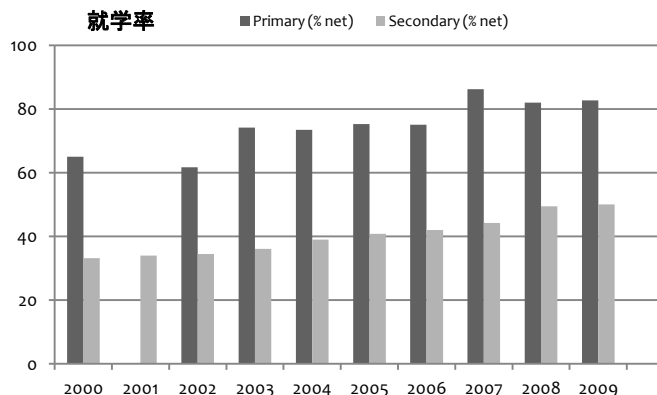


TABLE FOR TWOは、ケニア西部ビクトリア湖のルシंगा島とムファンガノ島内にある小学校で、学校給食プログラムを支援しています。

ビクトリア湖周辺地域では、多くの人々が自給自足的農業と漁業に従事してきました。しかし1950年代にイギリスが持ち込んだナイルパーチという外来種の魚が、人々の生活を激変させました。世界各地からのナイルパーチへの高い需要が、漁業を急速に発展させ、収入源を農業から漁業中心とシフトさせる世帯が急増しました。さらに周辺産業（加工業、運送業など）も広がり、この地域に暮らす多くの人々がその恩恵にあずかってきました。

その一方で、漁業の急成長は負の影響ももたらしました。ビクトリア湖固有の淡水魚が激減、絶滅し、生態系に深刻な影響が出ています。また漁業労働者が急増したため、労働環境や賃金が悪化しはじめ、自給自足的な農業も営んでいた時期よりも、食料摂取量が低下してしまうという現象が起きています。

また、漁業従事人口の増加に伴い、多くの女性たちが売春婦として生計を立てるようになりました。その結果、HIV/AIDSの高い蔓延率、さらに孤児の増加、といった負のスパイラルが続いています。

そのような問題を抱えるこの地域で、TABLE FOR TWOは小学校で学校給食を提供し、児童の健康状態の改善、そして教育機会の創出を図っています。



ルシंगा島の様子

学校給食プログラム



ムファンガノ島・給食前に手を洗う子どもたち

TABLE FOR TWOでは2島の下記の小学校に通う子どもたちへ学校給食を届けています。

学校名	
ルシंगा島	Kamasengre Primary School
	Eddie Memorial Primary School
ムファンガノ島	Kiwari Primary School

生徒の中には、家庭では満足な食事を食べられない子どももいます。学校で食べる給食は、彼らの健やかな成長を支え、学業に専念する環境を作るのに、大きな役割を果たしています。

学校給食プログラムは「食事の前は手を洗う」「食事に用いる食器はきれいに保つ」といった衛生や環境への配慮を教える機会にもなっています。



ムファンガノ島・給食を食べる子どもたち

給食のメニュー表

KILWARI	EGD	DAILY	DIET
TIME	10:20 AM - 11:00 AM	12:15 PM - 2:00 PM	
MON	UJI & FRUITS	DAGAA & UGALI	
TUE		UGALI & BEANS	
WED		DAGAA & UGALI	
THUR		VEGETABLES & UGALI (BEANS)	
FRI		GIDHERI & TEA	
NOTE	FOLLOW STRICTLY		

Kagano Worldwide

ルシंगा島、ムファンガノ島の学校では、以下のようなメニューが提供されています。

- ウガリ：メイズ（トウモロコシ）の粉で作られたお餅のような主食
- シチュー：日干ししたイワシを用い、動物性たんぱく質を補給
- 野菜：ゆで豆、葉物野菜、ニョニョ（メイズと豆を混ぜたもの）
- 果物：マンゴー、オレンジ、バナナ、パッションフルーツなど

原材料は、島の周辺地域やケニア国内で生産されたものが中心です。給食を提供することが、間接的に地域の経済にも貢献しています。

教師から

ルシंगा島、ムファンガノ島では、以前に学校給食プログラムが中断してしまった際、生徒数が4分の1にまで激減してしまっていたことがありました。現在TABLE FOR TWOが給食プログラムを支援している学校では、給食が子どもたちにとっての大きなモチベーションとなり、生徒数は増え続けています。

しかし利用可能な教育施設は限られており、家庭の事情などから、未だ学校に通えない子どもたちも少なからず存在します。



親から

両親からも、給食プログラムの効果を体感する声があがっています。かわら版紙面で紹介したLewieの母、Atienoは小規模農業で生計を立てています。彼らの畑では、主にキャッサバを育て、それを主食としています。

Atienoは「学校給食が開始されて以来、Lwielはほとんど一日中学校で過ごすようになり、帰宅後も疲れた様子を全く見せなくなった」と話します。また「学校給食のおかげで、Lewieが健康面の心配も軽減された」とも話してくれました。